

5次総計の該当箇所

追加配布資料

〇〇第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策6 島のランドデザインにふさわしい観光の促進

事業概要・目的

背景

コロナ禍の反動需要により観光ニーズは多種多様化している。また新たな価値観としてワーケーション、グランピング等が定着し、競合他地域ではそれらが標準化しつつある。

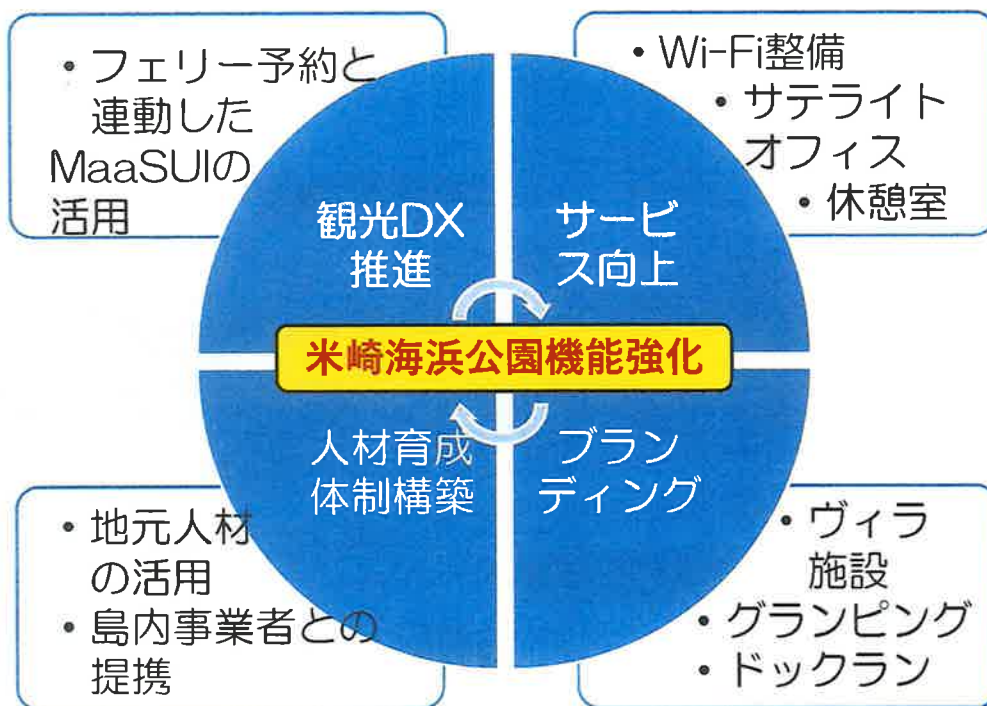
現状と課題

整備運用から10年以上経過した本施設は経年劣化による機能低下が著しく、整備コンセプトやサービスが時代にマッチせずポテンシャルを発揮できていない。また、近年のクルーズ船寄港や大型テーマパークの開園を考慮するならば、富裕層やインバウンド需要にも対応した機能強化が望まれる。

対策

観光DXの推進によるタビ前予約と情報発信及び観光需要の取込。安心・安全・快適で質の高いサービスの提供。ブランディング戦略と人材育成、組織体制の構築。

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 〇観光ニーズに対応した米崎エリアのブランディング化が図られる。
- 〇未利用区画の北側エリアにヴィラ施設を誘致することで事業展開の実証と運営体制の構築が期待出来る。
- 〇施設の高付加価値化による域内経済循環率の向上に資する。

前年度までの成果

- 〇海岸整備、園内設備に係る実施設計
- 〇北側海岸工事の実施

事業イメージ・具体例



事業展開イメージ

- ①モデル：北側エリア造成→ヴィラ施設誘致（民間投資）→集客（民間）→運営管理・サービス（飲食、アクティビティ等：島内事業者）→実証・体制構築
- ②運営管理・サービス提供（島内事業者）：飲食（食事券・BBQ・ケータリング）・送迎（クーポン）・受付・清掃・維持管理→体制構築→横展開→起業創出

事業イメージ・具体例

